すいたの自然 2021

The nature of Suita 2021

概 要 版

こんなにすごい吹田の自然！！

皆さんにとって、吹田市の自然のイメージは、どんなものでしょうか？
市街地ばかりで緑が少ない？　それとも、大きな緑あふれる公園が多い？
「都市」のイメージの強い吹田市ですが、
実は、吹田市にはとても希少な動植物が生息・生育しているのです。

■ヤマサギソウ
大阪府ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅰ類

大阪府内では、吹田市を含め３箇所でしか生育が確認されていません。日当たりの良い草地に生育します。

■ホンドキツネ
大阪府ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅰ類

吹田市内では、これまで万博公園や紫金山公園などで記録がありました。今回の調査で市内の公園で繁殖していることが確認されました。

■ヒキノカサ
環境省ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅱ類
大阪府ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅰ類

大阪府内では、大和川水系以外では唯一の生育地です。市民団体の調査で、市内に 100 個体以上の群落があることがわかりました。

■ヒメボタル
吹田市天然記念物
大阪府ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅰ類

一生を陸で過ごすホタルです。林の中で見られます。吹田市内では、千里緑地にヒメボタルが多く生息しており、市の天然記念物に指定されています。

■アイナエ
大阪府ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅰ類

日当たりのより湿った草地に生育します。とても小さく、花の大きさは、直径 2.5mm 程しかありません。

■ベニイトトンボ
環境省ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅱ類
大阪府ﾚｯﾄﾞﾘｽﾄ：絶滅危惧Ⅰ類

水草が豊富なため池などで見られます。大阪府内では個体数が激減しており、めったに見られないトンボになってしまいました。

街中の小さな緑地に。あなたの家のすぐ隣に。
身近な場所で、とてもめずらしい動植物を見ることができる。それが吹田の自然の魅力です。

なんでこんな所に希少種が？

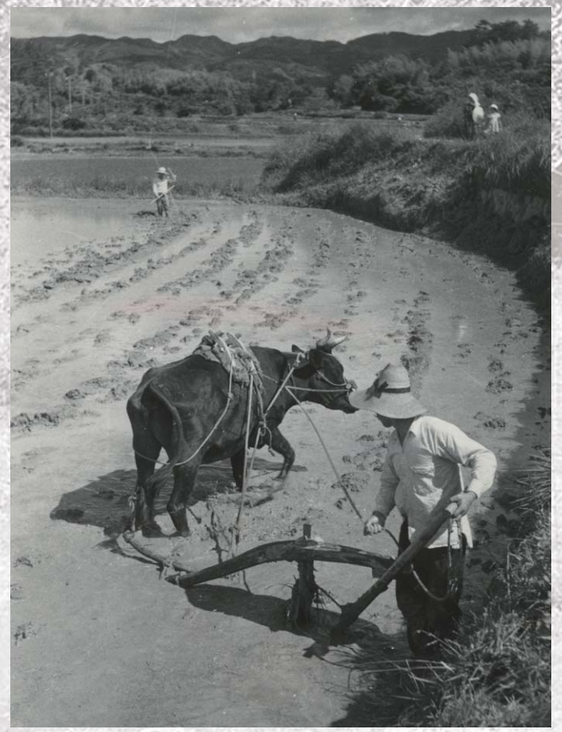
吹田市の北部は、かつては千里丘陵と呼ばれ、
樹林や水田の広がる里地里山の風景が広がっていました。

今、日本の里地里山と言われる環境が減っています。
メダカやトノサマガエル、赤トンボなど、昔はあたり前にいた生きものが見られなくなっています。今、日本でレッドデータブック等で絶滅の危機に瀕しているとされる動植物が集中する地域のうち約半数が、里地里山に分布しています。

昭和 35 年（1960 年）頃。千里ニュータウン開発前の千里丘陵。

昭和 35 年（1960 年）頃の吹田市。千里山団地越しに千里丘陵を望む。

日本は古くから人が自然を利用することで保たれてきた環境があります。



昭和 30 年（1955 年）頃の万博記念公園付近。
山田上の牛耕。

●水田・草地
昔は河川の氾濫原に形成された湿地に生息・生育していたような生きものが、水田を湿地に見立て生き残っています。水田は、人が人工的に作った湿地環境ですが、タニシなどの貝類、トンボやホタル、ゲンゴロウ類、カエル類、ドジョウなどが見られ、それらを狙ってサギ類などの大型の鳥類も集まる豊かな生態系が築かれています。
また、畔や周辺の土手は、人が定期的に草刈りをすることで、日当たりの良い草地が維持され、そのような環境でしか生育できない草花が多く見られます。

●ため池
大阪府内には耕作地に水を提供するためのため池が数多くあります。管理されたため池は良好な水質を保ち、水生植物が豊富で多くのトンボ類やメダカ、ドジョウなどの魚類が生息していました。

●雑木林
日本の多くの樹林は自然のまま放っておくと社寺林などに見られる常緑照葉樹林に遷移していきます。しかし、人里に近い樹林は、古くから薪炭林として利用され、10～30 年程度のサイクルで定期的に伐採されることで、コナラやクヌギなどの落葉広葉樹林が主体の明るい雑木林が維持されてきました。そのような雑木林の明るい林床には、そのような環境を好む草花が見られ、若い林にはゼフィルスと呼ばれる可憐なチョウ類も多く生息していました。
現在は雑木林は利用されなくなり、自然の遷移により、徐々に常緑樹の優先する暗い林になりつつあり、それに伴い明るい雑木林に棲む生きものが絶滅の危機に瀕しています。

昭和 30 年（1955 年）。弘済院前の風景。（撮影：野口昭雄氏）

千里丘陵は、昭和 45 年（1970 年）の万国博覧会と千里ニュータウン開発を機に急速に市街化が進みましたが、その前は、丘陵地に樹林や水田が広がる里地里山の環境が広がっていました。

現在千里丘陵に残る希少な植物たちは、千里丘陵の開発が進む中、住宅地の周囲に残された緩衝緑地や住宅地の間の空き地に種を飛ばし生き延びた植物だと考えられています。

草地　～市街地にひっそりと生き残った植物～

市街地の間に残った法面などの小さな緑地。
そのような緑地に里地や湿地に生育するような希少な植物が
ひっそりと生き残っています。

今生き残っている希少な植物は、どんな草地でも良いというわけではありません。
日当たりが良く、適度な湿り気のある環境が必要です。
昔は、水田の畔（あぜ）や土手などで定期的に草刈りが行われ、日当たりの良い草地が維持されていました。現在は、植栽管理の一環として年２回の草刈りが実施されてきた市街地の間の小さな緑地にひっそりとこれらの植物が生き残っています。
吹田市内では、最初のページで紹介したヤマサギソウやヒキノカサ、アイナエのほか、イヌセンブリやスズサイコ、キキョウなどが見られます。

イヌセンブリ

スズサイコ

キキョウ

そのような草地では、その他にも多くの可憐な植物が観察できます。

ウツボグサ

カンサイタンポポ

ヌマトラノオ

ミヤコグサ

ネジバナ

樹林　～多くの生きものを育む林～

吹田市内では、まとまった樹林は公園緑地で見られます。また、住宅地の間に小面積の樹林が分布します。
そのような林では、カブトムシやチョウなどの昆虫類、多くの鳥やタヌキなども生息する豊かな生態系が築かれています。

植物を食べる昆虫類、それを食べる小鳥類、さらにそれらを食べるテンやキツネ、タカなどの肉食動物など、林の中には、多くの生きものが棲んでいます。また、動物の糞や死体、枯れた植物などは、土の中に棲むダンゴムシやミミズ、微生物などによって分解され、土の養分となり、その養分が新しい植物を育てます。これらの生きものはそれぞれが影響しあって生きており、どれか一つが欠けてもバランスが崩れてしまいます。

昼の林

昼の林からは、小鳥たちのにぎやかな声が聞こえてきます。

コゲラ

エナガ

キビタキ

イカル

夜の林

夜の林は、昼間見られない哺乳類が餌を探して歩き回っています。
昼間も良く探してみると、哺乳類の落し物が見つかるかもしれません。

タヌキ（ホンドタヌキ）

テン（ホンドテン）

樹液に集まる昆虫

クヌギやコナラの樹液にはたくさんの虫が集まってきます。

カブトムシ

ネブトクワガタ

左上：カナブン　中央：ゴマダラチョウ
右下：ヒカゲチョウ

吹田のホタル

吹田市には、陸に棲むヒメボタルというホタルがいます。
ゲンジボタルやヘイケボタルと異なり、幼虫は陸産の貝類などを餌としており、一生を陸域で過ごします。メスの後翅は退化し飛べなくなっているため、移動能力が低く、古くから樹林環境が維持されていないと生息できません。

千里緑地に多くのヒメボタルが生息しており、市の天然記念物に指定されています。
ここでは、市民団体が保全活動やモニタリング調査を長年継続しており、ヒメボタルの個体数は徐々に増加しています。

キツネ（ホンドキツネ）は主にネズミや鳥、昆虫類、果実などを餌としています。農地や樹林、草地などが混在する里地里山の環境を好み、生息するためには、広い面積の緑地が必要です。一般的に行動圏は４㎢程度とされていますが、環境によっては 25 ㎢に及ぶ例も知られています。
３月～４月に子を産み、メス親を中心に夏まで群れで生活します。巣穴は日当たりの良い林や土手などに掘られ、子育てに利用されます。

キツネの巣穴は出入り口が何箇所もあり、地下で迷路状になっています。

大阪では丘陵地の開発により、キツネの生息できる環境が減り、キツネが次々と姿を消しています。吹田市内でもかつては北部を中心に生息が確認されていましたが、徐々に姿が見られなくなっています。比較的新しい記録では、万博記念公園や紫金山公園などでキツネの繁殖の記録があります。今回、キツネの子育てを確認した公園はそれほど面積は大きくありませんが、安威川の河川敷や市内に残る緑地を広く利用しているのではないかと思われます。

今回の調査で撮影されたキツネの親子。左の写真が成獣で、右の写真の２頭が子キツネです。夜行性のため、昼間に姿を見ることはめったにありません。

吹田のキツネ

キツネは大阪府内では、近年個体数が急激に減少しており、大阪府のレッドリストでは、絶滅の危険性が最も高い絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。今回の調査では市内の新たな公園でキツネ（ホンドキツネ）の繁殖が確認されました。

水辺

～ため池のトンボたち～

吹田市内には多くのため池があります。
コンクリート護岸で覆われてしまったため池もありますが、
水生植物の豊かなため池では、たくさんのトンボが見られます。

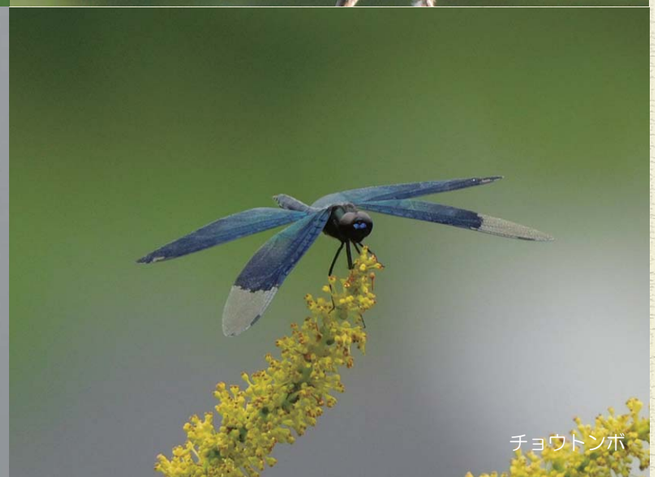
吹田市内のため池では、絶滅の危惧されているトンボも多く生息しています。
トンボは種類によって、明るい開けたため池が好きなトンボ、樹林に囲まれた暗い池が好きなトンボなど様々です。
産卵する場所も、水際の植物に卵を産み付けるトンボ、水草に卵を産み付けるトンボ、空中から水面に卵をばらまくトンボ、水際の泥に卵を産み付けるトンボなど、種類によって異なります。

いろいろな種類のトンボが生息するためには、いろいろな環境のため池も必要なのです。

セスジイトトンボ

コフキトンボ

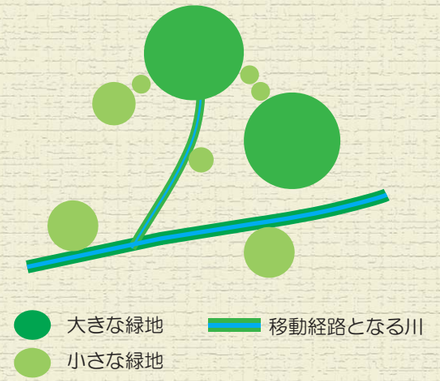
ショウジョウトンボ


チョウトンボ

～川のつながり～

吹田市の南端を流れる安威川は、海の満ち引きの影響を受ける感潮域と言われるエリアに位置します。そのため、安威川では、ボラやチヌなど海の魚も見られるほか、ニホンウナギやカネヒラ、モツゴなど多くの魚が生息しています。

ニホンウナギは、海で産卵し、孵った稚魚は、川を遡上し、川やため池などで大きく育ちます。ニホンウナギのように海と川の両方を行き来する種にとっては、大きな堰などがなく、自由に海と行き来できる川がとても重要です。



【エコロジカルネットワークのイメージ】

●エコロジカルネットワーク

川のつながりは、陸域でも重要です。
緑地の面積が小さいと、餌が十分にとれないなど、生きものがその緑地だけで生きていくことが難しくなります。そのような小さな緑地と大きな緑地を、生きものの移動経路となる小規模な緑地や川で繋ぎ、ネットワーク化することをエコロジカルネットワークと呼びます。
吹田市では、生きものの生息空間として機能する公園緑地や社寺林などが市街地の中に点在しています。河川は、点在する緑地を繋ぎ、より多くの生きものが生息できるように重要な役割を果たしています。

変化する自然

吹田市内には、まだまだ驚くほど貴重な自然が残っていますが、一方で、少しずつ環境が悪化してきています。

●減少する水田

吹田市内では、年々水田が宅地などに変わっており、10 年前と比べると面積は約 4ha も減少していることが明らかになりました。

水田

ニホンアマガエル

吹田市内では、水田にしか生息・生育しない動植物も多く見られ、水田の減少による影響は深刻です。
特にその影響はカエル類で顕著で、アマガエルやトノサマガエルは、10 年前より確認地点が減り、市内ではとても珍しいカエルになってしまいました。

環境省が 2020 年に公表した資料では、20 年前と比較して、スズメの数が約 30%、ツバメの数が約 40%減少しているそうです。原因としては、やはり農地の減少の影響が大きいと考えられています。

今回の調査では、スズメもツバメも 10 年前と同じようにどの調査地点でも確認されていますが、個体数は徐々に減っている可能性が考えられます。

スズメ

クロマダラソテツシジミ

●新たに見られるようになった生きもの

一方で、新たに見られるようになったり、分布を広げている生きものもいます。
哺乳類では、外来種のアライグマが分布を広げ、新たにハクビシンも広く確認されるようになりました。
昆虫類では、亜熱帯性のチョウであるクロマダラソテツシジミが複数地点で確認されるようになったほか、中部地方を中心に分布を急速に拡大している外来種のタイワンタケクマバチなどが確認されています。

気を付けたい生きもの

吹田市内に残る希少な生きものの生息・生育を脅かす生きものがいます。もともとはいなかった国や地域に人間が持ち込んだ生きもので、「外来種」「外来生物」と言い、特に人や生きものへの被害が大きいものは「特定外来生物」に指定されています。
これらの生きものは、もともと吹田市にいた在来の生きものを食べたり、餌や生息・生育環境を奪ったりすることで、生態系のバランスを崩し、在来の生きものを絶滅の危機に追い込みます。

このような外来生物の被害を予防するためには、
「入れない」「捨てない」「拡げない」ことが重要です。

■アライグマ

特定外来生物

雑食で、農作物を荒らすなど人への害だけでなく、鳥類、魚類、両生類、昆虫類等、何でも食べてしまうため、在来の生きものへの影響も大きいと考えられます。

■ウシガエル

特定外来生物

昆虫類や他のカエルをはじめとする多くの小動物を食べてしまいます。また、トノサマガエルなどは食物等を巡る競合の影響を受けると考えられます。

■オオクチバス類（左）
■ブルーギル（右）

特定外来生物

肉食性で、魚やカエル、水生昆虫、エビ、カニ等に至るまで何でも食べてしまうため、これらの生きものへの影響が大きいと考えられます。

■ミシシッピアカミミガメ

まだ特定外来生物には指定されていませんが、雑食で、何でも食べてしまうため、在来のカメ類や水生植物、魚類、両生類、エビ、カニ等に影響を及ぼしていると考えられます。

■アメリカザリガニ

まだ特定外来生物には指定されていませんが、魚や水生昆虫を食べてしまいます。また、水草を食べたり、切断したりするため、水生植物への影響が大きく、そのような環境を好むトンボなどへの影響も大きいと考えられます。

■オオキンケイギク（左）
■ナルトサワギク（右）

特定外来生物

繁殖力が強く、在来の草地性の植物が被圧され、生育できなくなる危険性があります。

特定外来生物は、生きたまま移動することや、野外へ放つ、植える及び撒くことも禁止されています。オオキンケイギクやナルトサワギクを見つけた場合は、引き抜き、抜き取った個体は飛び散らないようにビニール袋等に入れ、しっかりと口を縛り、枯死させた後に燃焼ごみとして処分してください。

カンサイタンポポ

コバノミツバツツジ

ツクシ

ルリビタキ

ジョウビタキ

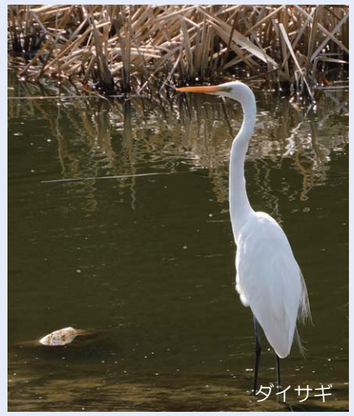
シジュウカラ

モンシロチョウ

ナナホシテントウ

アオスジアゲハ

ギンラン


ダイサギ

キンクロハジロ

マガモ

カルガモ

ツバメシジミ

ベニシジミ

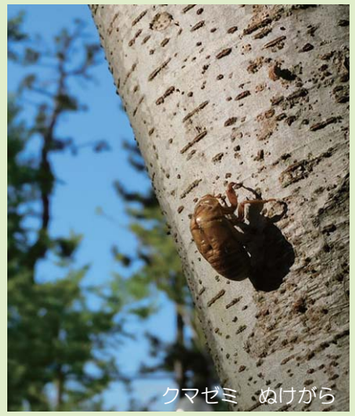
ニホントカゲ

出かけてみよう！ 春 夏

コクワガタ

ニイニイゼミ

アブラゼミ


クマゼミ　ぬけがら

タマムシ

シオカラトンボ

コオニヤンマ

ミゾカクシ

ツリガネニンジン

カワセミ

見つけてみよう！ 秋 冬

ヒガンバナ

ツブラジイどんぐり

コナラどんぐり

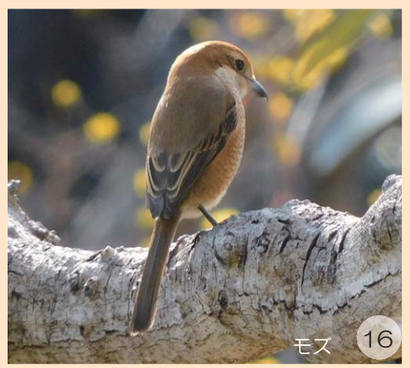
中の島公園　紅葉

アベマキどんぐり

ノブドウ

アキアカネ

ノシメトンボ


モズ

私たちにできること

【行政】

●市民一人一人が生物多様性を理解し、行動するきっかけとなるよう、生物多様性の保全に関する普及・啓発活動に努めます。

●生物の生息・生育環境を保全するための施策を検討、実施します。

●市民団体や事業者等と連携し、各主体が実施する生物多様性保全のための取組みを積極的に支援します。

【事業者】

●事業者が所有する土地について、生物多様性の保全に貢献する緑地の創出に努めます。

●事業活動が生物多様性に与える影響を意識し、その影響の継続的な削減に努めます。

●従業員への生物多様性の保全に関する普及・啓発活動に努め、市や市民団体が企画する生物多様性に関するイベントや活動等に積極的に参加します。

【市民団体】

●生物多様性に関する情報を積極的に発信します。

●自然観察会等のイベントを積極的に開催します。

●生物の生息・生育環境の保全や外来種対策等、生物多様性を保全するための活動を市とも連携して進めていきます。

【市民】

●周囲の自然や生きものに目を向け、積極的に外へ出かけます。

●市や市民団体が企画する生物多様性に関するイベントや活動等に積極的に参加します。

●地元でとれた農産物を積極的に利用します。

すいたの自然 2021　概要版
令和４年（2022 年）３月

吹田市環境部環境政策室
〒564-8550　大阪府吹田市泉町１丁目３番 40 号
TEL　06-6384-1782 / FAX　06-6368-9900
E-mail：env-planning@city.suita.osaka.jp